

## 大阪府環境審議会水質部会（第3回）議事要旨

日時：平成26年1月27日（月）14時～16時

場所：地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所  
環境科学センター1階 研修室

出席委員：池委員、石川委員、島田委員、津野委員（部会長）

### 議事要旨

#### （1）平成26年度公共用水域及び地下水の水質測定計画について

○公共用水域常時監視の新たな効率化及び重点化についての基本的考え方について、事務局が説明（資料1）

池委員 重点化についてノニルフェノールとLASは新しく測定する項目であるが、過去に測定してきたデータはあるのか。

事務局 他機関で測定しているデータを収集して、水質に問題が無いことを確認している。

池委員 効率化についても、過去や他機関でのデータを考慮していくのか。

事務局 効率化については、これから行っていく常時監視に基づき、5年間測定し問題が無ければ減らすようにと考える。（委員了解）

○平成26年度公共用水域及び地下水の水質測定計画案について、事務局が説明（資料2、資料3-1、3-2、資料4）

津野部会長 水質測定案の43ページや44ページの調査地点と項目について、丸がついていない地点があるのは何故か。例えばチウラムとシマジンとチオベンカルブ、PCBなどいくつか丸が抜けている地点がある。

事務局 地下水の常時監視を開始した頃は、全地点、全項目で該当調査をローリング方式で行っていたが、国の通知において、汚染の可能性が極めて低い場合については、適宜対象物質を減ずることができるというようになっているため、測定結果から判断して二項目からその効率化を行っている。前述の項目については従来より、27地点のうち6地点で採用されている。（委員了解）

石川委員 結果的にどれぐらい効率化できたのか。

事務局 地下水については従来通りということで効率化等は行っていないが、公共用水域については、平成26年度と平成25年度の検体数を比較すると、河川では1,859検体減少しており、海域につきましては、565検体減少しているので、非常に効率化されている。

津野部会長 検体数は減っているが、新たな項目が増えたことにより、測定項数は増えているのか。

事務局 項目はもちろん増えているが、項目間では測定回数を整理することで、トータルの検体数としては減少している。

島田委員 資料1の効率化の基本的な考え方という案が確定されて、毎年の水質測定計画を策定する際には、資料1を基にして検討していくのか。

事務局 そのとおりである。

津野部会長 資料1の効率化の基本的な考え方の項目と回数の変更については、測定の経緯によって、一度減っても元に戻るということは有り得て、測定を無くしてしまった地点については、特殊な事情がない限りは元には戻らないという理解でいいか。

事務局 そのとおりである。

池委員 状況が変わってきた際には、今後は年度の始めに、基本的考え方の整理の発議があって、進んでいくという認識でいいのか。

事務局 まずは毎回、基本的考え方の変更が必要かどうかをご検討いただき、問題ないということであれば、水質測定計画を審議していただくように考えている。

津野部会長 それでは、平成26年度公共用水域及び地下水の水質測定計画を原案どおり答申をさせていただく。この決議の内容は、部会運営要領の規定により次回の審議会で報告をさせていただく。(委員了解)

## (2) その他

○ほう素等の排水基準の見直しに係るパブリックコメントの実施結果について、事務局が説明

⇒ 質疑なし。(委員了解)

## (3) 閉会